



2010年度 政治外交史Ⅱ 期末試験講評

〔問題〕

- (1)第2次世界大戦（ヨーロッパとアジア太平洋の両方面）の原因と結果について、自ら考えるところを述べなさい。
- (2)21世紀中に第3次世界大戦は発生すると考えるか。「考える」のであれば、その経緯と態様について予想しなさい。「考えない」のであれば、その根拠について具体的かつ論理的に説明しなさい。

1. 採点講評

今年も、例年どおりに、かなりスケールの大きな問題を出してみました。2つの設問とも「どう書けばよいのか」と面喰らった人も多かったようですが、それだけに答案構成の巧拙が、点数にも大きく影響したと思われる。

1問目については、ヨーロッパとアジア太平洋方面の、双方の戦争について、それぞれ「原因」と「結果」について言及しなければなりません。これをどのような順序で書くかは、それぞれの判断ですが、書き漏しがある場合については、それなりに減点をしました。また双方の戦争の原因について、講義では、1920年代末からはじまった世界的な経済恐慌に重きをおいて説明したかと思いますが、より遡ってヴェルサイユ条約の不平等性などに触れても構いませんし、アジア太平洋方面について、日本の国家体制に原因をもとめても、とくに減点はしていません。むしろ、論理的に説明がなされているかどうかを重視して採点しました。

2問目についても、解答の結論そのものは、自由に書いてもらって結構ですが、そこに至る論理構成が重要となります。問題文にも、第3次世界大戦が発生すると「考える」のであれば、その経緯と態様について予想せよ、また「考えない」のであれば、その根拠について具体的かつ論理的に説明せよ、と明記してあるわけですから、それらの記述が欠けているものについては、大きく減点してあります。

そういった「論点漏れ」のほか、減点の対象となったのは、大きな事実誤認です。戦争に至るさまざまな事件の前後関係を誤ったり、戦争の結果（勝敗）を間違えたりした答案は、そのレベルに応じて減点しました。

さらに誤字についても、今回は少し厳しめに採点しました。すでに就職活動を始めているみなさんにとって、誤字がどれほど重要であるかは、きちんと認識しておく必要があります。もちろん試験では辞典を引くことができませんから、その点は大目にみましたが。

とはいえ全体として見ると、期末試験の受験者に限れば単位を落した学生は7.7%に止まりましたので、採点を甘めにしたとはいえ、ほぼ全ての学生が、それなりの答案を書けていたことになります。

2. 成績分布について

①科目登録者全体における成績分布

A：25.5% B：9.8% C：11.8% X：3.9% 無資格・欠席：49.0%

②期末試験受験者における成績分布

A：50.0% B：19.2% C：23.1% X：7.7%